

指揮・命令系統の改善

情報伝達効率の向上

工事関係者全員に情報をタイムリーに伝達

大阪支店 真栄会 躯体部会



現場概要

- ▶ 敷地規模：距離 南北 約760m/東西 約1,800m
面積 142万3,000m²(東京ドーム約30個分)

敷地が広い**ため情報伝達が困難**

この現場における作業工程と施工体制(作業グループ)

- 作業工程

着工 → 上物解体 → 土間・基礎解体 → 杭撤去 → 完工

- 作業グループ

足場組立班・盛替班・解体班

タンク解体班

タワー吊降し解体班

ストラクチャー解体班

建屋・冷却塔解体班

土間基礎解体班

コンクリート層再生加工班

杭撤去班

これまでの連絡体制

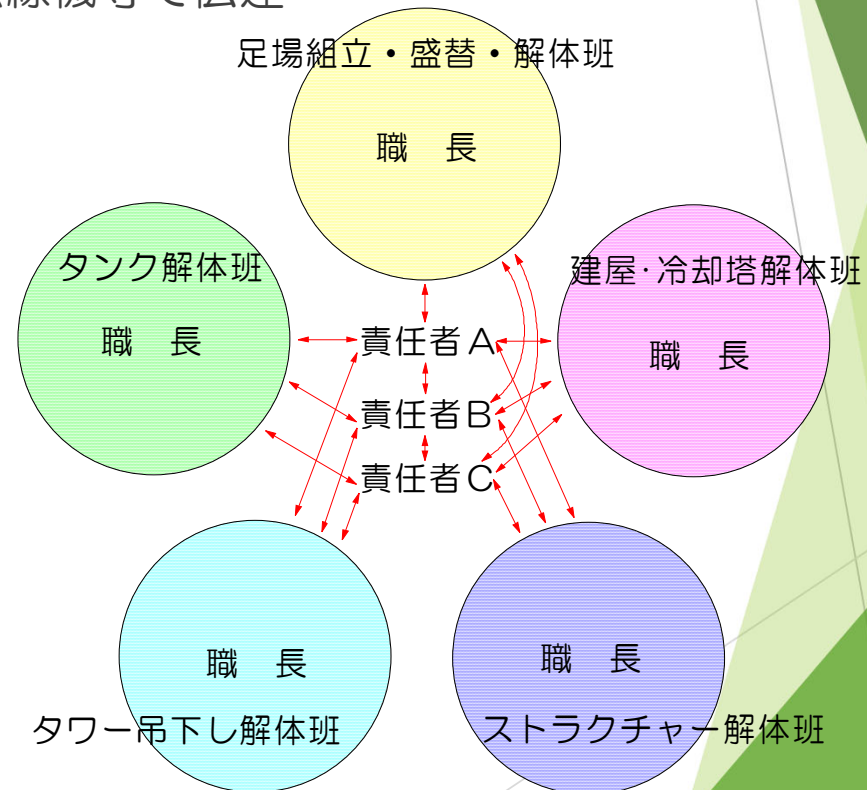
- それぞれの連絡状況と手段

- ・ 各責任者から各職長へ直接伝達若しくは携帯電話による伝達
- ・ 各責任者から管理者へ直接伝達若しくは携帯電話による伝達
- ・ 各作業班内のコミュニケーションは、無線機等で伝達



- 問題点

- ・ 情報伝達に時間を要する。
(各責任者から各職長に連絡し、各班の作業員末端までの指示伝達。)
- ・ 伝達内容に斑(ムラ)が出る。
- ・ 別途打ち合わせを要する場合が発生。
(各作業班同士連携が必要な段取り、準備に遅れを生じる。)



改善後の連絡体制①

● 改善内容

- 各責任者並びに各職長が同一の携帯無線機を所持
- 各責任者から管理者、各職長への情報伝達を無線機により一斉配信
- 各班の職長から作業員への情報伝達についても無線機で伝達



● 改善された点

- 情報伝達のスピーディー化
- 伝達内容が斑(ムラ)無く、タイムリーに共有可能
- 無線機の会話によりお互いの状況を把握しやすくなる。



無線機とイヤホンマイク



無線使用状況



改善後の連絡体制②



- 改善効果

- 疑問点などその場で確認でき、思い違い、勘違いがなくなる。
- 他作業班の動向変化が把握できる。



- 結果

- 現場の効率的な運営。
- 斑(ムラ)、無駄の排除。
- 現場の安全を確保しやすくなる。

